

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成 30 年 6 月 20 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 ウイルス・再生医科学研究科

職 名・学 年 教務補佐員

氏 名 吉 岡 久 美 子

助 成 の 種 類	平成 30 年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	欧州分子生物学研究所シンポジウム 生物振動子:デザイン、メカニズム、機能 EMBL Symposium Biological Oscillators: Design, Mechanism, Function		
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )		
発 表 題 目	Single-cell imaging approach to elucidate the act of Lfng on Hes7 oscillation in mouse segmentation clock		
開 催 場 所	ドイツ・ハイデルベルグ		
渡 航 期 間	平成 30 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 6 月 8 日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助 成 金 の 使 途 内 訳	シンポジウム参加登録料 390EURO/52,908円	
		航空賃 210,790円	
		(空港使用料、燃油サーチャージ含)	
宿泊費(5泊) 63,457円			
	上記に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 科研費を獲得していない教務補佐員の身分(博士課程修了)で、今回の学会参加経費を助成頂いたことは大変有り難かったです。今後は是非再び2期制にさせていただいた方が、広く色々な分野の国際学会への参加支援を行えるのではないかと思います。		

## 成果の概要／吉岡久美子

今回、貴財団の国際研究集会発表助成助成金の採択を受け、ドイツ EMBL ハイデルベルクにて行われた EMBL Symposium Biological Oscillators: Design, Mechanism, Function に参加した。当該シンポジウムは、生命現象における様々な時間スケールで起こる「振動」現象に関する研究をテーマに数年に一度開催を予定されており、今回が二度目の開催、採択者は初参加であった。

参加者は、概日時計、細胞周期、分節時計、メタボリックリズム、Ca<sup>2+</sup>振動、細胞内シグナルの振動、人工オシレータなど、「振動」というキーワードを共通しながらも、多岐にわたるモデルを用いる研究者がドイツ国内外から集結し、3日間朝から晩まで熱く議論を交わした。

採択者はポスター発表者として、脊椎動物の発生期に働く分節時計の研究成果を報告した。振動は自然界に普遍的に見られる現象であり、共通する原理、また実験手法なども多いため、分野をまたぐ研究会には大変意義があると感じる。しかしながら、国内で振動現象をテーマにした研究会は少なく、今回のようなシンポジウムへの参加は採択者の熱望するところであった。

ポスター発表では関連分野内・外の研究者から質問を受け、国際誌への投稿準備前の段階にあって非常に有用なアイデア、批評を得た。また関連分野の研究者との議論やコーヒブレイク中の歓談など積極的に交流し、人脈を拓げることができたと同時に、興味深い研究内容を新たに知り、博士号取得後の研究テーマを考える上で実りある情報収集の場となった。

また、海外の学生の積極的かつ論理的で楽しい議論内容にも感じる場所があった。世界の研究者と共に、また彼らと競争しながら、価値ある研究成果を発表していくために、海外で研究経験を積む必要性を強く感じた。研究テーマと設備次第であるが、博士号取得後の留学についても前向きに考える大きな経験となった。このような機会を助成して下さった貴財団に、こころより感謝申し上げる次第である。